

「マジョリティとマイノリティ」

マジョリティとは、本来、「多数者」・「多数派」を意味する英語の言葉。単純な人数としては必ずしも多数でなくとも、様々な経緯によって、強い発言力を持ち優位な立場に立つグループを指してマジョリティという場合もある。これに対して、マイノリティとは「少数者」・「少数派」を意味する。マジョリティは、多数派であるが故に、意識せずマイノリティに不利な環境を作ることがあるといわれている。

一つ例を出してみよう。私は左利きである。利き手という観点で考えれば、日本においてはマイノリティに入る。例えば、電車の自動改札、入口の右側に設置されており、右手でタッチすればスムーズだ。しかし、私は左利きなので、つい交通ＩＣカードを左手に持ってしまう。当然、タッチするときは横を向かなければならない。また、包丁やはさみなどの道具は右利きの人に便利のように作られている。飲食店でカウンターの席に座ると、隣の人に肘がぶつかってしまいそうで、少し肩をつぼめ、遠慮がちになってしまう。右利きの人にはなかなか分からないことである。そのようなことは利き手のことだけではない。マイノリティには分かっている、マジョリティには気づかないことは多いのではないか。

人がたくさん集まると、その集団において年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好などさまざまな違いがある。それを多様性という。多様であるが故、個々の観点で見れば、人はマジョリティであったりマイノリティであったりする。

先の例にあるように、社会のいろいろな環境は多数派であるマジョリティ使用になっていることが多い。少数派であるマイノリティに合わせた社会になっていないので、マジョリティにはなぜ、そうした困り感が生まれるのかわからない。ある大学教授は、「特権」という言葉を使う。マジョリティが「特権」として無意識に与えられた恩恵に気づくことが大切だと話す。そこからお互いに対する気遣い、思いやりの気持ちが生まれてくるのではないか。すべての人がお互いの権利を尊重し、支え合う社会でありたい。

6月14日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1から100までの自然数を、下のように、連続する3つの数の組に分ける。このとき3つの数の和が12の倍数となる組は何組ありますか。

(1、2、3)、(2、3、4)、(3、4、5) ………、(98、99、100)